

みどりの特徴と計画の進捗状況

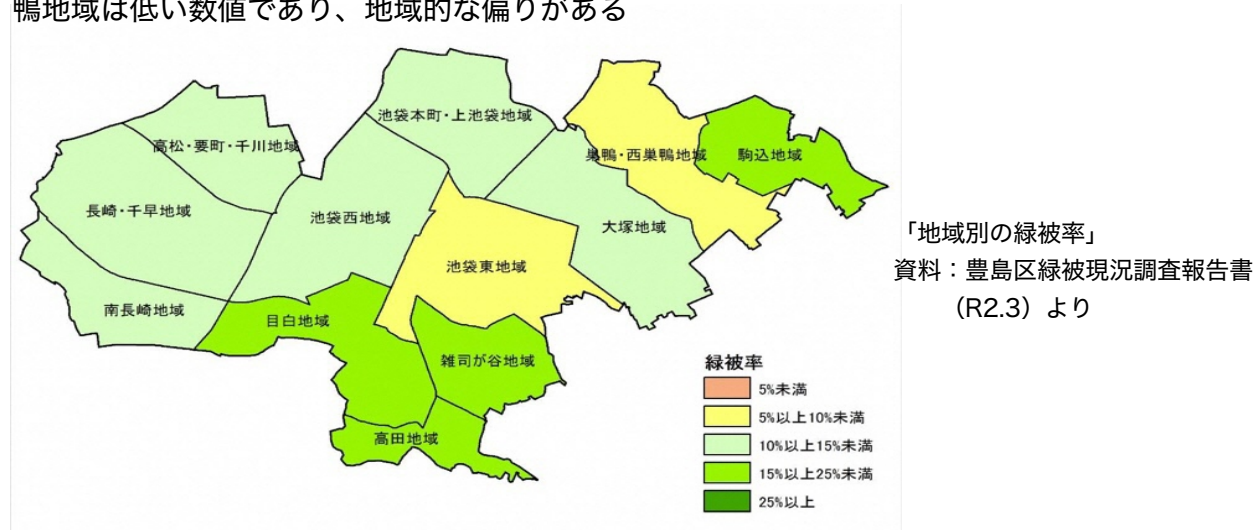
■豊島区におけるみどりの特徴の概要

1) 歴史あるまとまった規模の緑

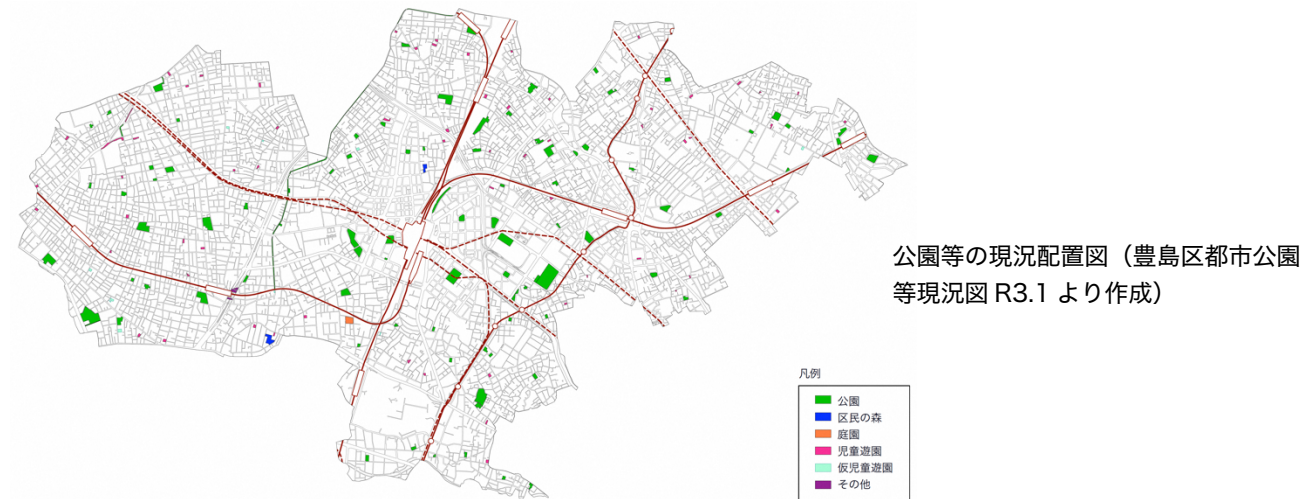
- 都立雑司ヶ谷霊園・染井霊園、学習院大学などのキャンパス、社寺境内などが豊島区の中で規模が大きい緑地を有している

2) 緑と公園の量的水準

- 緑被地は、公共の緑が 50%、民有地の緑が 50%の割合で半数ずつ
- 緑被率は、東京 23 区のうち 19 位とやや低い水準だが、この 5 年間で緑被率は増加（主な増加要因：既存樹木の生長に伴う増加。特に街路樹の生長と新たな整備による増加）
- まとまった規模の緑がある雑司が谷・目白・高田・駒込地域の緑被率は高く、池袋東・巣鴨・西巣鴨地域は低い数値であり、地域的な偏りがある



- 公園の整備数は、区全体の面積あたりの公園数は 23 区でトップクラス
- 公園の整備面積は、区民ひとりあたりの面積は 23 区で最下位であり小規模な公園が多い



3) 屋上緑化や再開発地区の緑

- 区役所の屋上庭園「豊島の森」や大規模商業施設をはじめ、建築屋上の緑が増えつつある
- 池袋駅周辺を中心とする再開発地区で公園や公開空地などの緑の再生が進んでいる

4) 特徴的な区立公園の整備と取組（「公園がまちを変える」）

- 民間事業者などが参画している南池袋公園、としまみどりの防災公園（イケ・サンパーク）、中池袋公園、池袋西口公園の池袋駅周辺の 4 公園における整備・再整備により多様な利用が展開し、まちの回遊性と魅力向上につながっている

■現行計画の進捗状況

1) 現行計画であげられている課題

- ①ネットワークとなるみどりづくり
- ②環境問題や防災性に配慮したみどりづくり
- ③身近なみどりを広げる
- ④区民協働によるみどりづくり
- ⑤拠点となるみどりの維持保全
- ⑥地域に愛され親しまれる公園にする

2) 現行計画の基本理念と将来像

基本理念：「都市にふさわしい質の高いみどり」、「五感にうたえるみどりの空間」
「自然と人間の共生」

将来像：～みどりのネットワークを形成する環境のまち～

- 庭先の身近なみどりから豊島区の骨格となるみどりまでがつながりをもち、人が快適に生活でき、多様な生物も生育が可能なまち
- 日常生活空間でふれあえる身近なみどりが連なるまち
- 「みどり」の街づくりをみんなで取組むまち
- 寺社など古くから伝わる地域のみどりの拠点と、公園などのみどりの拠点がバランスよくあるまち
- 行政と住民の協力のもとで、みどりが美しく維持管理され、育っているまち

3) 計画目標の達成状況（平成 23 年度→令和 2 年度）

現行計画の計画目標 6 項目に対する最新の測定値（令和 2 年度）と現状での対応について

- 緑被率：目標達成（目標 13.0%→最新値 13.2%）、樹木などの育成管理や緑化推進策を継続中
- 緑視率：目標達成（緑視率 25%以上の地点が 5 箇所増）、緑化の誘導と街路樹整備などを継続中
- 公園の整備面積：目標未達成（目標 24.5ha→最新値 23.8ha）、公園の新設と再整備を継続中
- 緑化基準を満たす公共施設数：目標未達成（目標 80%→最新値 75%）、緑化の誘導を継続中
- 街路樹設置道路の延長：目標未達成（目標 80%→最新値 79%）、街路樹設置道路の整備を継続中
- 民有地の緑化の推進：みどりの条例に基づく緑化計画により良好な緑化の誘導を継続中

4) 施策の進捗状況

将来像や目標を実現するために、現行計画では主に以下の施策が計画されており、ほとんどが着手されて現在も継続中か、達成している状況である。

① みどりのネットワークをつくる施策

風とみどりの道の形成、学校などを中心としたみどりのネットワーク形成、エコロジカルネットワーク形成

②日常生活でふれあえるみどりを広げる施策

公共施設の緑化、民有地の緑化、あらゆる都市空間の緑化推進、都市の防災性を向上するための緑化

③みどりをみんなでづくり・育て・考える施策

区民参加によるみどりのまちづくり、みどりの啓発事業の推進、区民や事業者の主体的な緑化活動支援

④拠点となるみどりを増やす施策

拠点となる公園の配置、防災機能を有する公園の整備促進、大規模公共施設の緑化、民有地緑地の保護・保全・活用

⑤地域の人々に愛され、親しまれる公園を育てる施策

公園の維持管理、利用管理、再整備、活用・運営